

5 IPM実践指標の活用

(1) IPM実践指標とは

IPM実践指標は、IPMを実践する上で必要な農作業の工程（以下「管理項目」という。）と各工程における具体的な取組内容（以下「管理ポイント」という。）を示すことで、農業者自身がIPMに関する取組の程度を容易に把握するためのものである。農業者は、IPM実践指標に記録した取組結果について評価を行い、翌年度の取組に反映させることでIPMを効率的に実践することができる。

静岡県ではこれまでに水稲、キャベツ、施設トマト、施設なす、温室メロン、いちご、わさび、畑わさび、白ねぎ、にんじん、茶、かんきつ、ハウスみかん、なし、ぶどう、ガーベラ、バラ、施設キクの実践指標を策定している。

(2) IPM実践指標の活用方策

IPM実践指標の具体的な活用方策としては、各農業者が自己点検した結果を以下の考え方で指数化することにより評価できる。

評価の手法としては、下記に示すような手法が考えられる。

ア IPM指数（指数値で評価する場合）

IPM指数	評価結果
指数80以上（IPM実践農業者）	A
指数60以上80未満（IPM実践途上農業者）	B
指数60未満（IPM準備中農業者）	C

IPM指数＝実施した管理ポイントの点数の合計／当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる全管理ポイントの最高点数の合計×100

IPM指数は、各農業者が設定した管理ポイントの合計点数を100とした場合に、実際に実施された管理ポイントの合計点数の割合であることから、IPMの達成度合いを客観的に測定できるというメリットがある。

イ IPM指数向上度（指数の向上度で評価する場合）

IPM指数向上度	評価結果
現状値より20ポイント以上の向上	A
現状値より10～20ポイント未満の向上	B
現状値から10ポイント未満の向上	C

IPMの導入初期においては、IPM指数を用いてIPMの客観的な達成度合いを測定するよりも、むしろ、今年度のIPMの達成度合いが昨年度の達成度合いよりどの程度向上したかを示す手法であるIPM指数向上度を用いる方が、農業者のIPMへの取組を促し、より農業生産現場にIPMが浸透しやすいと考えられる。

ウ IPM指数の分布（モデル地域全体の農業者の相対的な評価で評価する場合）

IPM指数の分布	評価結果
上位3割	A
中位4割	B
下位3割	C

モデル地域全体の農業者の相対的な評価（IPM指数の分布）を組み合わせることにより、農業者

の意識啓発を図ることができる。

エ 地域全体の I P M 実践度

例： I P M モデル地区（水稲作付面積
6 ha）の場合
A 農家 2 ha（ I P M 指数 80）
B 農家 1 ha（ I P M 指数 50）
C 農家 3 ha（ I P M 指数 60）

$$\begin{aligned} & \frac{\Sigma (\text{個人の} \text{水稲作付面積} \times \text{I P M 指数})}{\text{地域全体の} \text{水稲作付面積}} \\ &= \frac{2 \text{ ha} \times 80 + 1 \text{ ha} \times 50 + 3 \text{ ha} \times 60}{6 \text{ ha}} \\ &= 65 = \text{地域全体の I P M 実践度} \end{aligned}$$